

鹽竈十福

しおがまさま

第 204 号

午のひづめが幸運を運ぶ
うまくいく御守

- 桜舞うなか 花まつり 4月26日 2頁
- 御神木詣り 始めました 2頁
- しおがまっ子夢応援プロジェクト 3頁
- 博物館 新収蔵資料の御紹介 5頁

花まつり 四月二十六日



三月の「帆手祭」、七月の「みなと祭」と共に当社社子三祭に数えられる花まつり。今年は四月二十六日（日）に斎行されます。

江戸時代の中ごろ、仙台藩領内では干ばつや疫病などが絶えず、塩竈でも町民の生活を脅かしていました。苦しんだ氏子たちが、鹽竈大神に祈願し、安永五年とその翌年に神輿渡御を行ったところ災害が止んだことから、安永七年（一七七八）以降、神恩に感謝して毎年行うようになったのが花まつりの始まりとされます。

最初は「弥生祭」とよばれ三月に行われていましたが、明治時代に太陽暦への改暦に伴い祭日が四月二十五日に改められ、ちょうど桜の時期でもあることから名称も「花まつり」と呼ばれるようになりました。その後、昭和六十年に四月第四日曜日に改定され今に至っています。

御神木詣り始めました

当社の御神木として親しまれている楼門左手にそびえる杉の大木。土壌を養生し、根を保護するため周囲を結界で囲んでいますが、このたび橋を架けることで御神木近くでお詣りできるようになりました。

とくに毎月一日は柵を撤去し、御神木のすぐ近くでお詣りすることができます。

この御神木は推定樹齢八百年ともいわれ古いものです。江戸時代、塩竈出身の画家・小池曲江による「鹽竈松島凶屏風」（鹽竈神社博物館蔵）にも印象的に描かれています。

皆様も、古くから氏子崇敬者の往来を見守ってきた御神木をお詣りしてみませんか？



しおがまさま 神々の花灯り

来る四月十一日、塩竈市青年四団体連絡協議会によるライトアップイベント「しおがまさま 神々の花灯り」が当社境内にて開催されます。

当日は午後六時から竹口ウソクの仄かな灯りが、桜咲く境内を幻想的に照らし、舞殿で神楽など芸能が披露されます。



塩竈市事業

「しおがまっ子」

夢応援プロジェクト

書道作品展示

塩竈市の生涯学習課で推進している「しおがまっ子夢応援プロジェクト」。市内在住の十八歳以下の「しおがまっ子」の夢を応援するこの事業に、当社としても協力しました。

市内小学校に在学する原田みのりさんは、かねて書道に強く関心をもち、今回大きなキャンバスにお目出たい言葉を墨で書き鹽竈神社に飾りたい、という夢を持っていました。「みんなに幸せを届ける」という彼女の願いに共感した、仙台育英書道部に所属する佐藤涼音さん・佐藤慶音さん姉弟の協力を得て、書道作品「寿鬼」を制作。縦一・五m×横四mの和紙に「年が明けて不苦笑い、みんな笑顔でお目出鯛」の文言と、中央に大きく朱墨で「寿」の字が書かれた大作です。

この一月二十七日から二月十五日にかけて絵馬殿に展示し、多くの参拝者にご覧いただきました。



第七十八回 奉獻乾海苔品評会

昭和二十三年に始まり第七十八回目となる乾海苔品評会が一月十一日、当社を会場に開催されました。

今漁期は、記録的な猛暑の中、種網の育苗管理に苦労したものの、十一月後半以降、漁場環境が回復し質の良い乾海苔が生産されました。

県漁協各支所を通じて出品された九十点の乾海苔は、六日に行われた審査の結果、優賞に菊地幹彦氏が、準優賞に手代木千年氏が選ばれた他、下記の五十八名の方々が入賞。

十一日当日は鹽竈神社左右宮拝殿において奉獻感謝祭が関係者参列のもと斎行されたほか、祭務所にて出品海苔が展示され、連休で訪れた多くの参拝者が色や香りを鑑賞していました。

尚、優賞・準優賞の両氏は、二月十三日に宮司と共に皇居に参内し、宮内庁掌典職を通じ畏くも天皇皇后両陛下はじめ各宮家への献上の榮譽に浴しました。

受賞者（敬称略）

優賞（宮城県知事賞）

仙南支所（亙理）菊地 幹彦

準優賞（塩竈市長賞）

鳴瀬支所 手代木 千年

壹等賞（東松島市長賞他）

鳴瀬支所 手代木 浩二

石巻支所 丹野 薫

仙南支所（亙理）津田 雅彦

代ヶ崎浜地区 赤間 竹晴

代ヶ崎浜地区 榎 比寿

仙南支所（亙理）木村 宏

貳等賞

（全国漁業協同組合連合会長賞他）

矢本支所 相澤 裕太

宮戸支所 阿部 信弘

石巻支所 近藤 正昭

仙南支所（亙理）穴戸 敏浩

花刈浜地区 鈴木 順治

石巻支所 中井 裕紀

石巻支所 本田 智章

塩釜地区支所 有 千葉水産

技術賞

（東北海苔問屋協同組合理事長賞他）

矢本支所 相澤 太

代ヶ崎浜地区 佐藤 勘二

宮戸支所 栗石 博幸
東宮浜地区 名村 朝洋
代ヶ崎浜地区 山崎 浩樹
参等賞（アイサン工業株賞他）
吉田浜地区 赤間 善勝
代ヶ崎浜地区 石森 圭太
宮戸支所 奥田 正勝
要害地区 梶田 利一
宮戸支所 菊地 勇
代ヶ崎浜地区 坂本 寿
花刈浜地区 佐藤 勝利
吉田浜地区 鈴木 信悦
宮戸支所 千葉 富夫
代ヶ崎浜地区 津軽 圭一
吉田浜地区 沼田 一幸
宮戸支所 門馬 哲也
東宮浜地区 我妻 貞俊
松ヶ浜地区 大町 昭

四等賞（榊サンエイ海苔賞他）

石巻支所 相沢 充

葛浦田浜地区 伊丹 幸一

宮戸支所 尾形 文秀

鳴瀬支所 鹿野 拓洋

宮戸支所 櫻井 勝

東宮浜地区 瀬戸 博之

宮戸支所 千葉 政敏

石巻支所 星 長一

東宮浜地区 有 千葉海産

東宮浜地区 我妻 賢一

奨励賞
矢本支所 三浦 一郎

ほか十三名

産業功労賞

松ヶ浜地区 大町 昭

ほか九名

節分祭追儺式



二月一日・三日の両日、立春の節目に一年の厄災消除と家内安全を祈願する節分祭追儺式が斎行されました。

門内を埋め尽くした参拝者は、舞台から「福は内、鬼は外」の掛け声とともに撒かれる福豆を懸命に拾っていました。

御奉仕いただいた方々と、福景品を御協賛された企業団体を左記に御紹介いたします。
(敬称略)

◆御来賓

伊達家十八代当主 伊達 泰宗
塩竈市長 佐藤 光樹
宮城県議会議員 阿部 眞喜
塩竈警察署長 北浦 智之
副署長 大友 拓世
伊藤信太郎

◆年男・年女奉仕者

(一日) 相澤 清夫・鈴木 寧々
ほか計一四七名
(二日) 門田 記一・古内 伽奈
ほか計一一九名

◆福景品御協賛(順不同)

菅原園茶舗・福寿司・ライフ&ファッ
ションたかはし・MSインターナシヨ
ナル・郷家第三歯科医院・漢方の塩釜
芍薬堂・小松館好風亭・稲庭うどん瀧
さわ家・ピーシツク・救心製菓仙台営

業所・クラシエ薬品・ダイワ生物研究
所・日本クリニック仙台営業所・ムサ
シノ製菓・バイタルネット・柳川商店・
レストランシエヌー・白寿殿・大友
義雄・松和産業・塩釜地方卸売市場・
ごんきや・今野商店・宮本商店・たか
せさとし美容室・プリンス食品・IB
I Z A H E A D・セブンイレブン多
賀城大代五丁目店・エンドーグルー
プ・仙台水族館開発・星のり店・カ
フェレストランシーソー・澁谷商店・
フルセックロッシユ・ENEOS仙
台製油所・イーストコーストバーガー
シヨップ・春日屋商店・写真屋さん
21・松野・水野水産・コカコーラボト

ラーズジャパン・勝山水産・佐々勘商
店・ヤマス蒲鉾店・松島蒲鉾本舗・顔
晴れ塩竈・葉匠榮太楼・東日本ソル
ト仙台営業所・東陽防災設備・塩釜ガ
ス・シヨップサトー佐藤良明・北浜フー
ド・八百大・直江商店・キクニ・すし
哲・矢部園・石井商店・柴崎屋・塩釜
マルサ・マルミ東商店・進藤正毅・え
びすや釣具店・阿部善商店・丹六園・
ヨークベニマル塩釜店・大黒寿司・増
友商店・蜂屋食品・丸勝会館・阿部勘
酒造・佐浦・和食の小島・鈴木・いな
長・でん六 仙台支店・仙台味噌醤油・
小西美術工藝社・松田製粉・日本住宅・
マルマ佐々木水産・一ノ蔵・阿部電工

消 防 訓 練 実 施

去る一月二十八日、第七十二回文化財防
火デーに伴う消防訓練が行われました。

午前十時に開始された訓練では、乾燥注
意報の発令中に、古神符納所付近の山林に
おいて火災が発生し、強風で御社殿に延焼
する恐れが大きくなった想定のもと実施。

参加した神社職員を始め自衛消防隊や塩
釜地区消防事務組合一〇〇名は避難誘導
や初期消火・宝物類搬出に取り組み、志波
彦神社門内では消防車両からの一斉放水も
行われました。



博物館だより

新収蔵資料の御紹介

今回は、近年新たに収蔵した資料のうちから次の刀一口を御紹介します。

刀 銘(表) 用恵国包(裏) 正保三年八月吉日、長さ六九・一cm、反り一・五cm、宮城県指定文化財

作者の初代国包(一五九二〜一六六四)は、江戸時代前期を代表する名工の一人として著名な刀工です。同工は、名を源藏と称し、慶長十九年(一六一四)に伊達政宗公に召し抱えられて主命により京都の刀工・越中守正俊に師事したとされます。政宗公の覚えもめでたく、大坂の陣に従軍した際に政宗公自筆の和歌と軍扇を賜りました(仙台市博物館蔵)。寛永四年(一六二七)に山城大掾を受領、寛永十五年(一六三八)には瑞巖寺の雲居禪師より「仁澤用恵」の法名を授かり、正保二年(一六四五)に隠居した後も「用恵国包」と銘して作刀に携わりました。初代国包は、当時すでに廃れていた大和伝の作刀流儀を復興したことで知られています。大和伝は、頑健な刀身

の造形や刀身に對し平行方に肌目があらわれた柁目肌まさめはだの鍛え、直線的な直刃すくはの刃文を基調とした作風が特徴とされ、初代国包もこのような作風で生涯一貫しています。こうした初代国包の作風は、江戸時代末に活躍した十三代国包まで代々継承されたほか、多くの刀工に影響を与えて仙台藩独自の作風が育まれる核となりました。

本作は、初代国包が隠居の翌年に鍛えた作品で、やや細身の優しい姿には晩年の穏やかな作域がうかがわれますが、地鉄には柁目肌がよくつんで細やかな景色があらわれており、刃文は破綻ない直刃で切先部分の刃文は先が返らずに焼き詰めとなるなど、初代国包が得意とした作風が看取できます。美術的価値に加え、歴史的な資料としても価値が高い作品として宮城県の有形文化財に指定されています。

—*—*—*—*—*—*—*

入館料金等の変更について

令和八年四月一日より博物館の入館料金等が次の通り変更となりますので、御案内します。

○入館料金 大人五〇〇円

(団体二十名以上は四〇〇円、五十名以上は三五〇円)、大学生以下は無料

○開館時間 午前九時〜午後四時

○休館日 木曜日(神社で祭典がある日は開館します)

当博物館は、伝来の宝物を中心に、鹽竈神社にかかわる歴史資料等を収集・保存するとともに、展示・公開を通じ、その悠久の歴史を広く伝え、教育普及に資することを目的として、昭和四十年十一月一日に開館しました。



奉納御札

脇差 銘 河内守藤原國次

巨理町 佐々木 文司 殿

佐々木殿にはこの度、右の刀剣を御奉納いただきました。作者の国次(一六六〇)は、仙台藩の御刀鍛冶・大友国次系の初祖で、元和六年(一六一〇)に伊達政宗公に召し抱えられ、名取郡において作刀した刀工です。本作は、長さ一尺六寸(約四八・五cm)の脇指で、板目肌が立った鍛えに力強い乱れ刃を焼いており、初代国次の得意とした作風が示された一口です。付属の黒漆塗鞘脇指拵とともに、今後博物館の展示などで活用させていただきます。

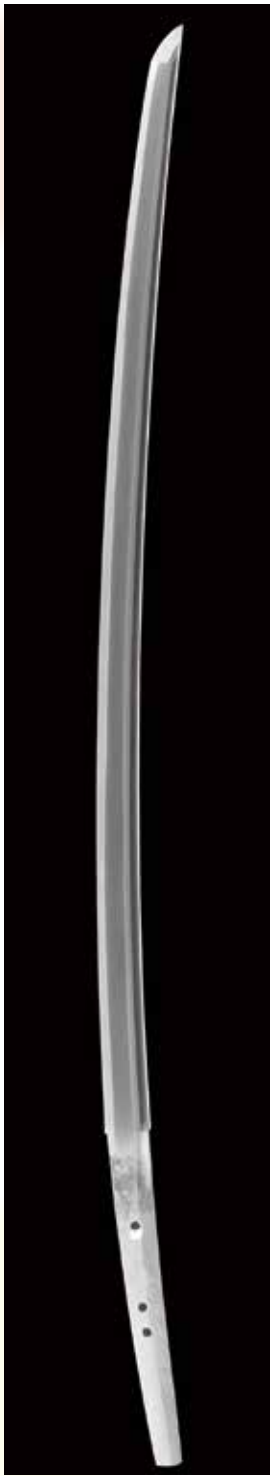
養成所通信

令和七年度卒業式挙行

当社内に置く神職養成所の卒業式が三月二十五日、挙行されました。

卒業生の小関達也君は、御神前での奉告祭ののち、社務所大講堂で行われた式典で、父兄や御来賓・講師が見守るなか、証書や神職の階位証の授受を受けました。

卒業後は、郷里の山形県高島町に鎮座する「高房神社」に奉職します。





祭事案内

四月から六月

毎月

一日 朔日祭

六日 曲木神社月次祭

十日 御釜神社月次祭

二十九日 志波彦神社月次祭

四月

二十六日 鹽竈神社花まつり

二十九日 昭和祭

五月

十日 鹽竈桜の日祈願祭

氏子崇敬会春季大祭

六月

三十日 夏越大祓式



参拝記録

令和七年

十二月

八日

文化庁文化資源活用課 震災対策部門

文化財調査官 玉井浩登氏

令和八年

一月

七日

宮城縣護國神社 宮司 田中直彦氏

九日

塩釜ロータリークラブ

十日

安住淳氏

十六日

責任役員総代会合同会

二十三日

竹駒神社 宮司 村田守広氏

二月

七日

声優・山寺宏一氏

十日

衆議院議員・森下千里氏

衆議院議員

森下千里環境大臣政務官参拝

去る二月十日、衆議院議員の森下千里殿が正式参拝されました。

森下議員は、二日前に実施された衆議院議員選挙において宮城四区から立候補し当選されたばかり。多忙を極めるなか、大神様に奉告の意味を込めての御参拝でした。



文芸欄

閉院を告ぐる墨痕初ざくら

立春の日ざし真中に地域猫

春立つやいのちと平和歌ふ子等

春の雪夫振り返る二百二段

烏雲にサフラン湯の在りし店

散髪の鉄の音や縁小春

雪解水我が体内をめぐりおり

朝寝して壺中の天をめぐりけり

午くいくみくじが飛ぶよ鬼やらひ

男坂いち段ごとに春さざす

菅原

佐藤

佐藤

齋藤

池田

鈴木

上田

今田

今野

及川

和子

光江

悦子

豊子

智恵子

ゆう子

由美子

須美子

紀美子

源作

銅板奉納者芳名

御社殿等の銅板屋根修復のため、左記の方々より御奉納いただきました。(敬称略)

令和七年

十二月 埼玉県

飯野 美紀

ほか一五六名

令和八年

一月 登米市

尾形 和美

ほか一三九名

二月 大阪府

中川 秀之

ほか一二七名

人事異動

昇級

三月十日付(神職身分二級)

権禰宜

栗生 貴史

新任

一月二十六日付

社務員

尾形きよ子

三月二日付

社務員見習

佐藤 義宜

退職

三月三十日付

苑丁

高橋 賢

巫女

大沼 れい

菅田

楓

おま

またなおか

この春より神社の公式ホームページをリニューアルしました。本紙と共に季節の出来事を皆様にお届け致します。あわせてご覧ください。(岳)

社報「鹽竈さま」第二〇四号

発行日 令和八年四月一日

発行所 志波彦神社 社務所
鹽竈神社

〒九八五-八五一〇

宮城県塩竈市一森山一番一号

電話(〇二二)三六七-一六一(代)

http://www.shiogamajinja.jp/